

岐阜新聞真学塾

出題 蜚雪ゼミナール 大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

問1 逆から読んでも同じになる言葉を三つ上げましょう。

問2 次の文が回文になるように（ ）に適切な言葉をいれましょう。

- (1) 竹やぶ()
- (2) 確かに()た
- (3) 私、()ましたわ
- (4) イカの()は済んだのかい？

豆知識 雑学コラム

新聞紙、桃、紳士…

今日は、言葉遊びをしてみましょ。う。「象、返したわ（ぞうかえしたわ）⇔私、絵、買うぞ（わたしえかうぞ）」のように、逆から読んでも意味の通った文になるものを「逆さ読み」や「倒語」と呼びます。逆さ言葉の中でも特に、「竹やぶ焼けた（たけやぶやけた）」のように上から読んでも下から読んでも同じになる文のことを「回文」といいます。回文を作るコツには、回文に使えるような言葉を見つけることです。

問1で出てきたような「トマト」や「八百屋」など逆から読んでも同じになる言葉だけでなく、「わたし……したわ」「いか……かい」のように逆さから読むと違う意味の言葉になる単語も探してみましょ。そして、出てきた言葉を組み合わせてみて回文を作ってみましょ。回文ができたら、「象、返したわ」のようにより難しい、逆から読むと違う意味になる逆さ言葉に挑戦してみましょ。



回文は国語の現代文だけでなく、他の科目でも関心の対象になります。例えば、古文の歴史的仮名遣いを使うと「塀のあるあの家（へいのあるあのいへ）」のように、現代仮名遣いでは作れない回文を作ることができます。「Was it a rat I saw?（わたしが見たのはネズミでしたか）」のように英語にも回文があります。また、算数や数学でも「12321」のように左右対称の数字を「回文数」や「ミラーナンバー」といい、中学受験で出てくるテーマの一つです。日常にあふれている、上から読んでも下から読んでも同じもの、左右対称になっているものに注目してみると新しい発見があるかもしれませんね。



【解答】

問1 桃（もも）、トマト、八百屋（やおや）、紳士（しんし）、新聞紙（しんぶんし）など
問2 (1) 焼けた (2) 貸し (3) 負け (4) ダンス